

令和6年度 相模台地区まちづくりを考える懇談会結果報告

- 1 日 時 令和7年1月23日（木）午後6時から午後7時37分まで
- 2 場 所 相模台公民館 大会議室
- 3 市側出席者 本村市長、奈良副市長、加藤南区長、小山ゼロカーボン・資源循環推進担当部長
米山地域包括ケア推進部長、岩崎南区副区長、榎本市民局長
- 4 出席委員等 25人
- 5 傍聴者 6人
- 6 懇談会の要旨

テ ー マ	ごみ集積所管理における負担軽減及びごみ出し支援について
<p>概要</p>	<p>ごみ集積所は利用している近隣住民が輪番で管理を行っているが、分別の不徹底や指定日以外のごみ出し、対象者以外の不法投棄も見受けられる。カラス等の被害により廃棄物が散乱していることも多く、ごみ集積所の管理に対する負担感はかなり大きい。</p> <p>ごみ集積所の管理負担軽減のためには、夜間回収や戸別収集が効果的であると思われるが市の考え方を伺いたい。</p> <p>また、高齢化が進み外国人世帯も増加する中、分別やごみ出し自体が困難な世帯もあり、対策を検討する必要があると考えるが、市と地域でどのような取り組みが可能か懇談したい。</p>
<p>地区の取組状況等</p>	<p>地区自治会連合会では、毎年5月に「きれいなまちづくりキャンペーン」を実施。今年度は5月24日（金）に実施しており、約50名が参加、60kgのごみを収集、廃棄した。また、各単位自治会においても、5月30日の「きれいなまちづくりの日」に合わせ地域清掃を行っている。</p> <p>ごみの分別やごみ出しのルールが守られていない場合の、外国人世帯や自治会未加入者への周知が課題となっている。</p> <p>集合住宅のごみ集積所でごみが散乱していることがあり、管理会社が市外に所在している場合等は、地域から管理会社に伝えても効果がない。</p> <p>ごみ置場を新設又は移設する際は利用者同士での話し合いや自治会長等の署名が必要なためハードルが高く、新たに用地を確保することも難しい。</p>
<p>市の取組状況等</p>	<p>きれいなまちづくりキャンペーンの中で、5月24日に60kgのごみを集めていただいたり、また5月30日に地域清掃していただいたりと、地域総ぐるみでごみについて取り組んでいただいていることを、改めてこの場をお借りしてお礼申し上げます。</p> <p>日常生活で、市民の一番身近な問題としてこのごみ問題があると思う。このごみを常に維持管理していくというのはどうしたらいいかというのが、我々行政としても、非常に大きな課題となっており、今日は皆様と意見交換ができればと思うので、よろしくお願ひしたい。</p> <p>まずテーマについて、市の取り組みをご説明させていただく。</p> <p>初めにごみ集積所についてお話する。ごみ集積所は、自治会をはじめ地域の皆様に維持管理をお願いしているが、地域によっては、集積所の確保や、カラスなどの鳥獣対策が負担になっているとの声をお聞きしている。本市では、カラス対</p>

	<p>策用ネットの購入など、集積所の維持管理に必要な経費を、自治会活動推進奨励金の一部として交付しているほか、集積所の確保や、鳥獣被害の防止等に関するご相談を受け付けている。引き続き、集積所の維持管理に関し、ご理解とご協力、また様々のご相談などが受けられればと思っている。</p> <p>続いて夜間収集や戸別収集についてである。夜間収集はまちの美観や歩行者の安全確保、事業系ごみの適正な処理などを目的に、今現在、9つの駅周辺10地区で実施している。今後も排出状況等に応じて適切に対応していきたい。</p> <p>戸別収集は、ごみ出し負担の軽減、ごみ排出責任の明確化、集積所の維持管理負担の軽減といった効果が期待できる一方で、集合住宅においては、引き続き同じ場所が集積場所となるといった現状がある。また、収集運搬経費の増加、必要な人員や車両の確保などの課題がある。</p> <p>こうしたことを踏まえて、現在、市の附属機関の相模原市廃棄物減量等推進審議会において、戸別収集や有料化について議論を進めているところである。</p> <p>次に、ごみ出し支援についてである。本市では、粗大ごみ、福祉ふれあい収集や訪問介護員によるホームヘルプサービス、ボランティア団体のシニアサポート活動などにより、高齢者のごみ出し支援を行っている。しかしながら、今後高齢化などのさらなる進行に加え、地域によっては、支援者が少ないなどの課題が顕在化してきたことから、廃棄物部門と福祉部門が連携し、来年度から、市内3地区において、一定の要件に該当する高齢者や障害者の方のごみを個別に収集するふれあい収集のモデル事業を開始する予定となっている。</p> <p>最後に外国人世帯への対応だが、外国語表記のパンフレットを用意しているが、地域のごみ出し状況や困りごとなどを把握しながら、さらなる効果的な対策などを検討していきたい。</p> <p>ごみの処理は市民の日常生活を支える大変重要な仕事であると認識しており、引き続きごみ出し負担の軽減に努めていくが、何より地域の皆様のご協力が不可欠であると考えており、今後とも行政と地域が一体となって、ごみの問題について取り組んでいきたいと思う。</p> <p style="text-align: right;">(奈良副市長)</p>
--	--

懇談内容	
地区の発言	<p>副市長から、困ったときには相談をという話があったが、どこに相談すればよいか。</p> <p>以前困った際に、南清掃工場に電話したことがある。様々な質問とお願いをしたが、職員から「ごみ問題については、全く市の方には関係ない」と言われた。子どもの通学路にカラスが30羽ほど集まることもあり、子どもが怪我した際に市役所は責任を取れるのか尋ねると、「怪我をした際には、ごみを出している周辺の住民の責任だと思う。市役所には関係ない」と言われた。市役所でできることがないのなら警察しかないということになり、南警察署に電話して、刑事が5人ほど来て、うちの防犯カメラを確認し、家を特定した。警察からは廃棄物処理法違反で逮捕していいか問われたが、懲らしめてくださいとお願いした。</p> <p>相談窓口がどこかわからないが、我慢してやってきたことを相談しており、「関係ない」で対応されたら市民としてもどうしようもなくなる。相談窓口がどこなのか、明確に教えていただきたい。</p>

	<p>ご近所トラブルになることも多いので、ぜひ市役所も、ルールを守らないごみ出しは犯罪だということを周知してほしい。我々の方でも頑張ってやらなきゃいけないと思うし、市長は戸別収集を目指してやっていただきたい。</p>
市の発言	<p>日頃からまちの美化活動と、ごみの集積所の問題、いろいろあると思うが、向き合っていただき、大変感謝している。</p> <p>南清掃工場での対応について、そのような対応をしていたとしたら大変申し訳ないことをした。お詫び申し上げたい。</p> <p>基本的には、集積所の関係で困ったことがあった際には、相模台地区であれば、麻溝台環境事業所が窓口になって、相談に応じている。</p> <p>警察にも相談されたということだが、まずは麻溝台環境事業所で話を伺って、他の集積所の事例を踏まえて、解決策を一緒に考えさせていただく。</p> <p>他にもやり方として、ごみの出し方に問題がある集積所があれば、地元の廃棄物減量等推進員と連携をとり、早朝、職員が集積所に行って、ごみの出し方に問題がある方に、個別にお話をさせていただき取り組みもやっている。廃棄物処理法違反など、そういったことになる前に、問題だということがあれば、連絡をいただければと思う。</p> <p>しっかり分別されていれば、我々も収集運搬が安全にでき、またそれが再資源化のもとにもなっていくため、一緒にやっていきたいと思っている。</p> <p>(小山ゼロカーボン・資源循環推進担当部長)</p>
地区の発言	<p>長年の自治会長の立場から質問させていただく。副市長から説明があったが、自治会活動推進奨励金に、環境美化活動の経費も含まれていることは承知しているが、交付額はどのように計算されているのか。また、自治会の加入率は50%前後だが、加入世帯数によって額の変動はあるのか。</p> <p>自治会加入世帯を基に奨励金が計算されているのであれば、今後は自治会の加入有無を問わずに、全世帯数で計算できないのか質問させていただく。</p>
市の発言	<p>環境美化活動推進奨励金の計算は、均等割と世帯割から成り立っている。</p> <p>均等割は12万円で、世帯割は自治会加入世帯数に250円を乗じた金額であり、それぞれを足したものがその地区の奨励金となる。</p> <p>世帯割に自治会未加入世帯を含む全世帯数で計算することは考えていないのが現状である。自治会に加入していない方もごみを出しているため、未加入世帯をカバーするという意味でこの均等割を12万円として計上している。</p> <p>(榎本市民局長)</p>
地区の発言	<p>相模台地区は外国人世帯が多い。私が今住んでいるところでも3割ぐらいが外国人である。そうすると、ごみの出し方がバラバラで、夜中に出す方が多い。</p> <p>外国語のパンフレット等もあるが、他に対策があれば教えていただきたい。</p>
市の発言	<p>パンフレットの話もあったが、複数の言語のパンフレットを用意しているため、適宜お配りすることもできる。パンフレット以外では、例えば集積所で、特に時間を守って欲しいとか、分別がうまくいっていない等、お困りの内容があると思う。直ちに対応できないかもしれないが、環境事業所にご相談いただければ、国際交流ラウンジと連携をとって、事情に合わせた注意書きを作ることも可能である。個別の事情に応じて支援させていただきたいと思っており、相談いただければと思う。</p>

	(小山ゼロカーボン・資源循環推進担当部長)
市の発言	<p>市民局では、国際課も所管しており、外国人の方の問題も扱っている。</p> <p>国が違えばごみの出し方も、日本の習慣も当然わからない方も多くおり、ごみのトラブルは多いと認識している。外国人自身も、どうすればいいのかわからないから教えてほしいというご意見をいただいている。</p> <p>そこで我々は、外国人向けに、いくつかの対応をしている。一つはくらしのガイドを9ヶ国語で作成しており、この中にごみの出し方の説明がある。もう一つは、小山部長が申し上げたものに近いが、星が丘地区で、外国人向けの説明を作って欲しいと言われ、どんな言語が必要かを聞き、国際交流ラウンジを通して翻訳を頼み、くらしのガイドを作製した。</p> <p>またもう一つは、相模原市のごみの出し方について動画で説明されているものが、Y o u T u b eで見られるようになっており、市のホームページや国際交流ラウンジ等でPRはしているが、まだ周知しきれていないところはある。</p> <p>そうした対応をしているため、外国人の方のことでごみの問題に限らず、お困りのことがあれば、国際課もしくは国際交流ラウンジに相談していただければ対応できることがある。</p> <p style="text-align: right;">(榎本市民局長)</p>
地区の発言	<p>相模原市では、ごみ分別のアプリはあるようだが、どのような周知をしているか。また、外国語には対応していないようだが、対応する予定があるのかどうかお聞かせいただきたい。</p>
市の発言	<p>シゲンジャーアプリをダウンロードしている方は活用いただいているかと思うが、シゲンジャーというキャラクターを使って、ごみの分別やごみを出す日を検索できるアプリである。現在6万5,000件ほどダウンロードいただき、市民の方に使っていただいている。ホームページやごみのパンフレットにアプリの紹介をしており、さらなる周知に努めていきたいと思っている。</p> <p>現状日本語版だけになっているが、外国人の方に、ごみの分別のことも伝えるべきだと問題意識として持っており、外国語の対応についても検討している。</p> <p style="text-align: right;">(小山ゼロカーボン・資源循環推進担当部長)</p>
地区の発言	<p>外国人の話に関連してだが、私は医療施設に勤務しており、その看護助手はほとんどが外国人である。E P Aや特定技能など外国人雇用促進の流れになっているが、相模原市は3%弱が外国人である。今、日本の国力維持のためにはあと10%が必要だと言われており、絶対に減ることはない。</p> <p>看護助手の勉強会があり、業務の話の中に、生活指導というところでごみ出し等の項目がある。勤務先の事務方に確認したがいい回答があった。</p> <p>「外国人スタッフを雇用している職場では、業務指導だけではなく、生活面でのサポートも重要で、ごみ出しルールのような取り組みは大変意義があり、職場での働きやすさと、地域社会の適応を促進し、雇用の継続と働く意欲の向上に繋がりたい」とのことだった。</p> <p>先ほど話に出たシゲンジャーアプリだが、できてから6年以上経っているかと思う。日本語版だけしかないということだが、E P Aでベトナム、韓国、中国等の人を呼んでおり、国がそうした施策を持っているため、すぐに対応するべきだと思う。それを専門に仕事をしている担当課が国際課なわけであり、放置されている現状に理解ができない。</p>

	<p>私は防災専門員で、「資源は地域にあり」という言葉が、キーワードである。何か災害が起きても、地域で解決し、みんなの助け合いで解決できるというのが、防災、災害ボランティアだが、ごみ問題もまさにそれに該当すると思う。企業の地域活動、CSRを市が指導していただき、企業は、地域があって初めてそこで仕事ができると認識を持ってほしい。ぜひそうした指導をしていただきたいと思います。</p>
市の発言	<p>外国人の方を雇用して職場の指導だけでなく、そういった生活指導をされるというのは、非常に私たちも心強い話を聞かせていただいた。</p> <p>また私たちも、外国人の方を雇用されているところに、ごみ出しも含めて、生活に必要な情報について企業を通じてお伝えするやり方も、確かに有効だと感じた。</p> <p>シゲンジャーアプリについて、早く外国語対応した方が良いということも、ご意見として受けとめさせていただく。</p> <p style="text-align: right;">(小山ゼロカーボン・資源循環推進担当部長)</p>
地区の発言	<p>ごみ出し支援について伺う。民生委員をはじめ、社会福祉協議会が地区で行っているサポート活動で、最も多く依頼されるのがごみ出しである。ヘルパーが朝8時半までにごみを出すのは、ヘルパーの訪問時間からして不可能な場合が多いため、地域包括支援センターなどからごみ出しの支援をお願いされることがある。ふれあい収集について、先ほども話があったが、相模原市では粗大ごみのふれあい収集を全市的に行っている。現在は3地区のみでモデル事業として実施される予定と聞いたが、介護や年齢などの条件が関係していると思われる。いつ頃から始まるのか可能な範囲で教えていただきたい。できれば地域の助け合いで解決できれば理想的だが、住民からは困っている声が多い。</p>
市の発言	<p>ふれあい収集ということで、取り組みを進めていくが、まずは来年度モデル事業として実施する想定である。今後、このモデル実施を通じて、どのくらいのニーズや業務量が見込まれるのか、また、回収したごみをどうオペレーションしていくのかといった観点を検証し、全市展開に向けた課題整理をしていきたいと思っている。</p> <p>現時点で、全市展開をいつごろ予定しているという明確な時期は、申し上げにくいですが、モデル事業の実施を通じて、なるべく早くできるように整理をしていきたいと思っている。</p> <p>地域での支援活動については、ありがたいが、少子高齢化が進む中で、課題は増えていくと考えられる。地域の支援が届かない部分については、市としても積極的に手を差し伸べていきたいと考えている。</p> <p style="text-align: right;">(小山ゼロカーボン・資源循環推進担当部長)</p>
地区の発言	<p>ふれあい収集の対象条件や要件が決まっていれば教えていただきたい。</p> <p>次に地域活性化事業交付金について、地域活性化事業交付金は各地区で割り当てられ、地域活動のために使われているが、多くの地区では、使いきれず余ることもあると聞く。残金を奨励金のような形で、ごみ対策で、地域に還元して使用していくことができればありがたいと思うが、そうしたことが可能なのか伺う。</p>
市の発言	<p>ふれあい収集の要件について、現在、利用対象者として検討しているのは、家庭ごみをご自身で集積所に持ち込むことができない方、具体的には介護保険の要</p>

	<p>介護者2以上の方や身体1級、2級の身体障害者手帳を持っている方で、一緒に住んでいる家族がごみを出せる場合は要件から外れる可能性があるため、一人暮らしまたは世帯全員がごみ出し困難な方が対象になってくると考えている。</p> <p>(小山ゼロカーボン・資源循環推進担当部長)</p>
<p>市の発言</p>	<p>地域活性化事業交付金とごみの関係の奨励金では補助金の目的が違うため、それをそのまま奨励金に流用することは難しい。ただ地域活性化事業交付金を何に使うかは、地域から提案いただき、それが地域のために役立つとなると、そこに対して補助金が出る仕組みになっているため、例えばおっしゃるようなごみの関係でも、ゴミゼロの日という市内全域で清掃していただく日が一日しかないが、例えば地域である程度まとまって、もう少しごみの活動をやろうという取り組みをすれば、その活動に対して補助金を本来の目的としてお出しするという事は可能かと思うので、ご相談いただきたい。</p> <p>(榎本市民局長)</p>
<p>地区の発言</p>	<p>ごみ問題について様々な意見が出ているが、ごみの減量についても重要な課題であると考えている。最近のごみの量が増加している状況がある。数年前に可燃ごみの収集回数が減ったと思うが市の考え方とその後の状況として、収集回数が減少したことでごみの量にはどのような影響があったのかを伺いたい。</p> <p>また、家庭でのごみ出しルールの徹底について、特に子どもたちへの教育や啓発活動は重要であると考えている。例えば、教育委員会と連携したポスターの制作や、学校での取り組みなど、過去には何かしらの活動が行われていたのではないかと。現在の取り組みについて伺いたい。</p> <p>ごみを出さないことはできないが、ごみの減量をどのように進めていくのか、具体的な考えを聞きたい。</p>
<p>市の発言</p>	<p>ごみの減量は、非常に重要であり、例えば脱炭素の観点から言うと、市の事業で排出される二酸化炭素の約5割から6割が清掃工場でごみを焼却することによって生じている。今国を挙げて二酸化炭素の削減に取り組む中で市としても2030年までに2013年比で50%二酸化炭素の削減を目指すという国家目標に準じた取り組みを進めているが、いかに清掃工場でのごみ処理量を減らすかが、非常に大事なテーマになっている。</p> <p>最近の課題であるが、ごみを減らしていこうということで、平成22年度から「ごみDE71大作戦」というキャンペーンを開始し、市民一人当たりのごみ排出量を削減するための取り組みを行っている。また、先ほどの話で、一般ごみの収集を週2回にしたのは平成28年からである。収集回数を減らしたのは様々な背景があり、一つはプラスチック容器包装の収集曜日を増やすなど、全体の調整を行ったこともあるが、結果的に収集回数を減らすことによってごみが減ってきている。</p> <p>「ごみDE71大作戦」を実施した際の市民一人当たりのごみ排出量は、1日当たり540グラムであったが、令和5年度には452グラムまで減少している。これは市民の分別意識が高まってきていることも大きく貢献していると考えている。子どもたちへの教育については、小学校4年生の社会科授業でごみの分別ルールや収集後の流れを学ぶ機会を設けている。市の啓発担当者が学校を訪れ、子どもたちに分かりやすく説明している。また、美化推進の一環で、環境美化ポスターコンクールを開催し表彰等も行っている。こういった取り組みを通じて、特</p>

	<p>に子どものうちから、ごみの分別意識を持ってもらうというのは非常に重要であると考えているため、これらの取り組みをさらに強化していきたいと考えている。 (小山ゼロカーボン・資源循環推進担当部長)</p>
<p>地区の発言</p>	<p>5月30日を「きれいなまちづくりの日」として、市が美化運動推進協議会と連携してキャンペーンを行っていると聞いている。また、各自治会でもごみ拾い活動を行っている状況である。しかし、これらの取り組みがまだ十分に浸透していないと感じる。ごみを出さないのはできないため、これからはいかにごみを少なくするかが重要であるとする。</p> <p>具体的な事例を紹介するが、群馬県の小学校が実施した「ごみ減量チャレンジ」の事例が参考になる。この活動では、児童たちが夏休みを利用して、群馬県の小学校、全10校が集まり、延べ4,800人の児童が参加し、日常生活の中でごみを減らす工夫を実践した。例えば、台所での三角コーナーで、水をしっかりしぼってから捨てるなど、シンプルな取り組みを行った結果、夏休み期間約30日で延べ9,250kgのごみ減量に成功したという。</p> <p>このように、子どもたちに対してシンプルで分かりやすい取り組みを展開することが、ごみ減量の意識を広める鍵になると考える。このような活動が広がることを期待している。</p>
<p>市の発言</p>	<p>先ほども地域で60kgぐらいごみを集められたという話を伺った。少し視点が違うかもしれないが、ごみとしてまとめられて捨てられたものは適切に処理されているが、私たちが注視しなければならないのは、ごみとしてまとめられずに川に流れたり、山に放置されたりするものだと思う。こうしたものにもしっかり目を向ける必要がある。</p> <p>これは多くの方がご存じかもしれないが、日本だけの問題ではなく、今、海に年間数百万トンのプラスチックが流れ込んでいると言われている。このまま進むと、2050年には海の中にいる魚の重さをプラスチックが上回ると予測されている。そうなると、海の主役はプラスチックになってしまう。プラスチックは紫外線を浴びると細かく砕けて、いずれ生物の体内に取り込まれるようになる。実際、富士山の頂上の大気からもマイクロプラスチックが検出されているという報告があり、非常に深刻で、私たちの世代で考えるべき課題だと感じている。</p> <p>したがって、ごみを適切に処理するだけでなく、環境にごみを流出させないよう、しっかり取り組んでいかなければならないと考えている。また、今ご紹介いただいた群馬県の「ごみ減量チャレンジ」のような取り組みは非常に参考になる。子どもたちにとってシンプルで分かりやすい活動は、ごみ減量意識を高める鍵になると考える。 (小山ゼロカーボン・資源循環推進担当部長)</p>
<p>地区の発言</p>	<p>様々な要望やご意見が出ているが、私は基本的には、相模原市のごみ対策に関しては、清掃局や市の委託を受けている集積業者を含め、非常に良くやってくれていると思っている。その点について、本当に感謝申し上げたい。</p> <p>その上で質問させていただきたい。市ではいろいろと分別を行っているが、プラスチックや段ボール、瓶缶など、紙の分別もあると思う。これらの再生利用について、どの程度進んでいるのか、またその結果、どのような効果があるのか。利益などについて、あまり報告がされていないように感じるので、もし効果が出ているのであれば、どの程度プラスチックなどが再生利用されているのかなど教</p>

	<p>えていただきたい。</p> <p>また、先ほども話に上がったが集合住宅のごみ集積についてである。多くのアパートや集合住宅では、ごみ集積所が設置されているが、全く設置されていないところもある。市としては、どのような指導を行っているのか。既存の住宅に関しては難しいかもしれないが、これから建設されるものについては、強力な指導をお願いしたい。本当は、集合住宅にごみ集積所を設置することを義務化してほしいが、それが無理でも強い指導をお願いしたい。市としてどのような対応をしているのか、伺う。</p>
<p>市の発言</p>	<p>良くやっているという言葉をいただき、大変ありがたく思う。今後も期待にこたえられるように頑張っていきたいと思う。</p> <p>資源に関してだが、市では集めたごみは、すべて中間処理を経て再生資源として活用している。プラスチックや瓶缶など、すべて再資源化のルートを確保しており、燃やすことはない。具体的な量については、ホームページに掲載している。</p> <p>次に集合住宅の問題だが、現在は建築の申請が出た際、必ず1棟に1つの集積所を設けるよう指導している。そのため、新しく建設されるアパートには、基本的に集積所が設置されることになる。</p> <p>一方で、既存の集合住宅については、管理会社や所有者が分かれば、市から入居者のごみのマナーに関してお話しすることができる。ただし、管理者が不明な場合もあるため、そうした場合は地域の協力をお願いすることがある。もし地域で、集積所が適切でないアパートなどがあれば、ぜひご連絡いただければと思う。また、困りごとについては、環境事業所に相談いただきたい。</p> <p style="text-align: right;">(小山ゼロカーボン・資源循環推進担当部長)</p>
<p>地区の発言</p>	<p>私は現在、2, 100世帯を抱える鶴ヶ丘自治会に関わっている。不動産業者が新しいアパートや住宅を建設しようとした際によく相談を受けるが、必ずごみ集積所を設置するよう強く言っており、新しい建設物には承諾を得て、ごみ集積所を設置してもらっている。</p> <p>ただし、少規模な開発、例えば集合住宅ではなく2、3軒一戸建ての住宅を建築する際は、ごみ置き場を設置しない場合がある。その場合、不動産業者から「どこにごみを出すのか」という質問が来るので、私は地域住民に対して「近隣の人たちに、どこでごみを出すかを確認してもらい、その地域のルールに従ってください」とお願いしている。</p> <p>最近では野良猫が減ったためか猫の被害はなくなったが、カラスの被害が大きい。ごみ出しをする人が、ネットの中に入れてずにポイ捨てをしたり、きちんとネットをかけない地域では、何度もカラスに荒らされている。本来は行政指導ではなく地域の我々が正しいごみ出しをお願いするのが一番よいが、昨今若い世帯に共働きが多く、高齢者は外に出ないため、地域のほんの数人が当番関係なくボランティアでごみ置き場を管理している。こういった問題は今どこの地域でもあると思うが、この解決策はいまだ見いだせない。私の地域でも、過去、事業系ごみが一般家庭ごみで出されていたことがあり、清掃局に相談して、ごみ袋を開けて調査してもらい該当者に指導してもらった事例もあるが、ごみの問題は地道に取り組まなければならないと思っている。</p>

	<p>また、先ほど、星が丘の外国人住民に対するポスターの紹介があったが、これは外国人世帯の多い地域では非常に有効であるので、A4サイズではなくもっと大きくて分かりやすいポスターを作成してもらえれば、地域の皆様にも喜ばれるのではないかと思う。</p>
<p>市の発言</p>	<p>カラスの問題についてだが、確かに非常に賢く、地域ごとに一般ごみの出される日のパターンを理解しているという話を聞いている。対策としては、ネットをかけて、カラスがごみを漁れないようにすることが最も効果的であると思う。</p> <p>小規模な開発についても、市では窓口で、地域としっかり協議を行ってくださいとお願している。そのため、開発業者から話があった際には、実際に対応いただいているということだが、新しく来る方もともに、ごみの適正排出につなげられるように、引き続き協力をお願いしたい。</p> <p style="text-align: right;">(小山ゼロカーボン・資源循環推進担当部長)</p>
<p>地区代表者の発言</p>	<p>多くの貴重で活発な意見、質問をいただき、感謝する。</p> <p>市側からも、市の取り組みや質問に対する丁寧な説明、回答をいただき、誠に感謝している。</p> <p>市の取り組みとして、ふれあい収集のモデル事業や、戸別収集の導入に向けた審議会での議論、さらには子ども向けの分別教育の推進などの説明があり、相談窓口の活用についてもご案内いただいた。困っていることが本当に多いので、傍聴に来ている自治会長もいるが、是非自治会長会議でも話したいと思う。困っている時に、麻溝台環境事業所が適切に対応してもらえるとということを聞いたことは大変良かった。また、本日は、多くの皆様からのご質問をいただき、特にごみ問題に関して学びの多い一日となった。</p> <p>私自身も、自治会の立場から意見を述べさせていただきたいと思う。</p> <p>まず、ごみ集積所でのマナー違反についてである。特に、地域外からごみを捨てる人々については、啓発活動を繰り返し行うことができないため、問題は深刻化しており、解決が困難であるという声が多く上がっている。自治会長は日々、地域のために知恵を出し合い、解決策を模索しているが、なかなか効果が現れず、むしろ問題が増加しているのが現実である。多くの自治会では、限られた人数でごみの管理を行っており、一部の住民に負担がかかっている。自治会加入率も50%を切り、地域の高齢化や一人暮らしの世帯の増加によって、ごみ集積所の管理は今後ますます困難になると予想される。</p> <p>また、相模台地区は狭い道路が多く、新たにごみ集積所を設置することも難しい状況であり、市の具体的な政策が必要な時期に来ていると考えている。戸別収集については、現在審議会でも議論が進められていることを聞いており、この方向性が解決策となることを期待している。住民一人ひとりが自分のごみに責任を持って出すことを促し、分別の徹底や資源化の促進を進めることが重要である。</p> <p>また、戸別収集が実現すれば、集積所の管理負担が軽減され、住民にとって公平なシステムが実現すると思う。清潔で美しい町並みが保たれ、防犯効果も高まり、住みたくなる町づくりに貢献できると考えている。ただし、戸別収集の実現には時間がかかることは理解しており、その間市側には、本気で現行の管理負担軽減に取り組んでいただきたいし、我々も市と協働して改善に向けて取り組まなければならないと考えている。その観点からも本日様々な意見が出たと思う。</p>

	<p>先ほども少し話題に出たが、自治会への加入未加入にかかわらず、ごみは捨てるため、ごみ置場も多く、カラスの被害を考えれば、出来れば折り畳み式のごみ収集ボックスの購入が望ましいが、高額なため買い換えることができない。奨励金の説明で均等割の説明があったが、各自治会で世帯数が全く異なるため、12万円の妥当性については疑問がある。</p> <p>これからも地域でごみ置場の管理をしていくが、奨励金等さらなる支援について、今後の検討をお願いしたい。</p> <p>本日は自治会の立場から意見を述べたため、やや偏った視点になったかもしれないが、本日いただいた多くのご意見をもとに、地域でできること、市にお願いしなければならないことを整理し、引き続き市側で検討していただきたい。市長をはじめとする行政の方が、本日の懇談会に誠意を持って進めていただいたことに感謝申し上げます。</p>
--	--

<p>市長の感想等</p>	<p>たくさんのご意見をいただき、感謝する。</p> <p>懇談会についてであるが、やはり皆様が感じたことを自由に話していただくことが大切であると考えている。相模台地区では、本当に活発な意見をいただき、感謝する。</p> <p>また、ご指摘いただいた職員の接遇については、私の責任であり、しっかりと対応していく所存である。72万市民、誰一人取り残すことなく、皆様に寄り添った対応を心がけていく。また、会長からも、麻溝台環境事業所に電話をかけるとのことで、どこに電話してもきちんと対応できるよう、接遇の向上を目指していく。私自身、市役所を歩きながら声をかけているが、残念ながら、素通りする職員もいる。奈良副市長が人材育成を担当しているため、職員の意識向上のために、メールを通じて啓発活動を行っている。</p> <p>先日、城山地区まちづくりを考える懇談会で、雨が降り、土木事務所に連絡したところ「今は対応できない」といった話があり、非常に残念だったという意見をいただいた。その方は市のOBの職員であったが、今日早速緑区長が現場に赴き、会長と共に現場を確認し、対応した。</p> <p>市政に対しては、苦言でも構わないし、思っていることを率直に言っていただくことが何より大切である。言いづらいことを避けていては、まちは良くなるまい。皆様が言いたいことを言い合い、お互いに解決策を見つけていくことが大切であると考えている。</p> <p>これからも、皆様のご意見を形にできるように努力していく所存である。私も、下水道の課題、ごみ問題、最終処分場の問題について、市長としてしっかり取り組んでいく所存である。県会議員や国会議員時代には、正直なところ関心が薄かった部分もあったが、市長としては非常に重要な問題であると認識している。</p> <p>また、広報さがみはらでは、下水道や最終処分場、ごみ問題について、これまでの6年間で多く取り上げてきた。3月までの構成は固まっているが、今日の意見を受けて、近々ごみ特集を組まなければならないと副市長と話した。</p> <p>私は、海老名市長から「市長自らごみの収集を行った方が良い」とアドバイスを受け、1年半前に実際にパッカー車に乗って一緒にごみ収集を行った。暑い夏</p>
---------------	---

の日であったが、職員や民間業者にお願いする立場として、実際に体験することで、問題意識がより深まった。

さらに、先日は串川小学校に行き、4年生の授業で学んできたが、そこでのクイズにかなり外れてしまった。例えばプラから作られるTシャツはペットボトル何本分でできているかという質問等は、まったく分からなかったが、こうした知識を広め、学んでもらうことが大切であると感じ、担当には、自治会や老人会など、地域の大人にももっと知ってもらうべき内容がたくさんあり、様々な場で普及啓発を進めるべきだと伝えた。

私も職員も、市民の皆様と一緒に学び、取り組んでいくことをお約束する。細かい部分については、しっかりと受け止めて対応していく。また、現在審議会で、ごみの有料化や戸別収集についても議論している。ごみの有料化に反対する意見もあるが、減量化を進めるためには必要な措置であるという声もある。最終処分場の候補地である地区の自治会長からも、有料化や戸別収集は必須だとの意見をいただいている。福岡市や八王子市でも戸別収集が行われている例があり、できないことはないと考えている。大切なのは「できないのではなく、どうやって実現するか」という姿勢である。

地域ごとの特性も考慮しつつ、どうすればより良い対応ができるのかを考えていく。津久井地域では熊やシカ、イノシシなどの有害鳥獣も問題となっており、対応策は地域によって異なるかもしれない。それでも、寄り添った対応をしっかりと行い、今後も皆様と一緒に解決策を見出していきたいと考えている。

これからも皆様のお力添えをよろしく願います。本日は、誠に感謝しています。
(本村市長)